

平成29年度組織目標の達成状況(課室目標)

所属名:水産課

No.	目標項目	達成時期・目標値・状態	達成状況	成果と課題	今後の対応 (達成状況が△、×の場合)
1	アユの不漁に係る資源維持、経営安定対策の着実な実施および不漁の原因解明	資源維持(人工河川追加放流)、経営安定対策は6月補正等により早期実施を図る。不漁の原因解明は今年中に絞り込みを行う。	○	6月補正を行い、人工河川から琵琶湖へのアユ流下量を通常年の計画量24億尾を上回る38.5億尾とするともに、緊急融資を実施して漁業経営の安定化を図った。不漁原因については、通常9月中であるアユのふ化が10月以降に遅れ、一時期に集中したことなどにより、著しく成長が遅れたためであると分析した。	
2	琵琶湖固有資源回復の最重要課題である南湖再生のための具体的計画の策定	年度末までに庁内協議を重ね、具体的計画案を策定し、H30年春の政府要望が実施できるよう関係部局と調整を図る。	△	関係部局による実務者検討会を4回開催し、取るべき対策や政府要望を行うことについて合意した。しかしながら、具体的計画の策定までには至らなかったため、H30年春の政府要望は見送ることとした。	関係部局と調整を図って具体的な計画を策定し、H30年秋に政府要望を実施する。
3	生息量が増加に転じた外来魚の着実な駆除	6月中旬までの駆除量により、以後の駆除を中断させないための対応を判断。国に対しては、必要経費補助を要請。	△	経費の増額は必要ないと判断した。また、梅雨時期の少雨による外来魚の活性の低下や年間駆除量の約3割を占めていた南湖の刺網の従事者の減少、南湖でのブルーギルの小型化などで、駆除重量が伸びないことから、備船による積極的な駆除を行うなど、効果的な取組を実施した。	生息量を確実に減少させるため、国に対して十分な支援が得られるよう要望を行う。また、水産試験場において駆除が低調となっている原因を検証するとともに、効率的な捕獲方法を検討する。

※「達成状況」の欄は、年度末の目標の達成について、

◎ 目標を超えて達成(100%超)、○ 目標どおり達成(100%)、

△ 目標の半ば以上の実績(50%以上)、× 目標の半ば以下の実績(50%未満)

に分類して記入してください。なお、記載にあたり、カッコ書きの数値により難しい場合は、この数値を参考としながら、各目標の内容に応じて行ってください。